

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870801236		
法人名	社会福祉法人明進會		
事業所名	たるみグループホーム		
所在地	兵庫県神戸市垂水区平磯4丁目5-13		
自己評価作成日	平成23年10月22日	評価結果市町村受理日	平成23年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyou-hvogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2870801236&SCD=320>

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2-2-14
訪問調査日	平成23年11月14日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々健康で笑顔を決やらず、ご家族とのかわりを第一と考え、感謝の気持ちを忘れずに相手の立場に立った思いやりのある介護を目指しています。また園児の声や遊びを眺めて、共に歌いふれあいを大切にしながら1日1日を楽しんで過ごしていただくことに力を入れている。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①**事業所理念の周知・実践**・・・法人理念を事業所の年度テーマに組み込み、日々のケアや地域交流等に活かし、実践に繋げている。地域密着型サービスの提供事業所として、地域の社会資源となる積極的な活動も多く見受けられる(地元のボランティアの導入・地域交流行事・認知症ケア知識の還元・実習生を積極的に受入れることで福祉人材の養成に協力している等)。②**利用者家族との信頼関係**・・・運営推進会議への家族の出席数も多く、定期開催されている家族会も円滑に運営されている。ホームでの利用者の「暮らし」を事業所と家族が一体となって支援している様子が多く見受けられる。③**法人内連携**・・・併設されている1階の保育園、2階の通所介護(デイサービス)との交流。理事長・施設長を中心に、事務長、管理者、各フロア一長・職員の協働体制が確保されており、連携のとれたサービスが提供されている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
# 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
# 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
# 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
# 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
# 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
# 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
# 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、エレベーター前に理念を掲示し、職員及び関係者がいつでも見れる状況にある。又毎年理念に沿った年間行事や地域との交流などを考えた上で事業計画を策定してその想いに沿った介護計画を作成している。	今年度のテーマとしては、「地域、家族と共に支えあうケアの実現」が掲げられている。事業所に併設された施設との連携や、地域および家族との交流に重点を置いたケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご入居者がその地域で暮らし自然に近隣の商店街へ買い物やお茶などに出掛けしている。又自治会に参加し近隣の方と共に食事会も予定している。	地元の行事への参加を支援し、中学校のトライアルウィークやボランティアの受け入れなど、積極的な取り組みがされている。また、1階の保育室を利用した「夏祭り」も開催されている。	地域の社会資源として、今後も、認知症ケアの理解と浸透への積極的な取り組みに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事(夏祭り等)に近隣の方へ参加を募っている。又施設内で行っている研修に地域の方々にもご案内をして参加を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所が取り組んでいることを出来るだけ多くの方に知っていただけるよう地域の方やご家族に参加をいただいている。全てのご家族へ会議の議事録を送付しアンケートを実施してサービス向上に向けた取り組みを行っている。	運営推進会議への家族出席者も多く、家族会も円滑に開催されている。併設のデイサービスや保育園との交流行事を含め、インシデント、アクシデントの内容も丁寧に伝達されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括のケア会議に出席し情報交換に努めたり、市・区の主催している講習会(研修)にも参加している。保護課のケースワーカーにもカンファレンスに参加していただきご入居者の現状報告と相談をしている。運営上の疑問点は行政担当者へ相談している。	垂水区の地域ケア会議には管理者が参加している。会議の中では、行政による保険や医療の研修も行なわれている。また、民生委員との連携やサポーター研修なども定期的に行なわれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年度の研修計画には身体拘束に関する研修を必ず折り返し何かが身体拘束になるか等、身近な事例を通して話し合い検討を行い身体拘束をしないケアについて理解を深める取組を行っている。	身体拘束排除の取り組みについて、事例を用いての、具体的な意見交換を交えた研修を継続的に行なっている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年度の研修計画には虐待の防止に関する研修を必ず折り返し何かが虐待になるのか等、身近な事例を通して話し合い検討を行い虐待防止に取り組んでいる。	虐待防止の研修は、重点項目として定期的に行なわれており、具体的な事例を通して理解を深めるようにしている。研修に対する職員のアンケートなども行なっている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加した。ご入居者に制度を必要とされる方もおり担当の司法書士と話し合う機会が幾度もあり、職員にも説明しカンファレンスを通して理解を深めている。	成年後見制度の活用等、具体的な事例を通しての取り組みがされている。今後、地域包括地支援センターとの連携も視野に入れ、リーダーに対する研修を検討している。	「利用者の権利」を深く学ぶことで日常の支援内容にも磨きがかかります。今後も、是非、学習を継続して頂きたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に諸契約書等前以て目を通していただき契約時には十分に説明を行い理解・納得を得て手続きしていただけるように心掛けている。又料金の改定が発生した時は、運営推進会議で説明を行っている。	契約に関しては、施設長や事務長が中心になって対応している。料金の改定などについては運営推進会議でも連絡をしている。アンケート結果にも、利用者や家族への説明がしっかりと行われている状況が伺える。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からご入居者、ご家族からご意見等を言い出しやすい関係づくりに努め、カンファレンスではご要望等うかがうようにしている。又家族会やアンケート等実施してご意見・ご要望を把握して運営に反映させる努力をしている。	介護計画については定期的な見直し以外にも毎月のチェックを行っており、家族とのコミュニケーションも大切に策定している。	アンケートに現れている良い部分を、今後も継続的に維持されることを期待します。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議では意見や提案を出し合い月に1度必ず代表者を交えた会議を行い、職員の意見を聞く機会を設けている。	理事長は全体会議の中で、リーダー会議やフロア会議の内容から出てきている内容を確認している。フロア会議では、行事の企画以外にも、職員の負担軽減や物品購入などの話し合いも持たれている。	運営や業務改善につながる提案に対し、個人レベルだけでなく、チームとしての取り組みも意識してみてもは如何でしょう。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員は年間を通して係(役割)を持って取組んでいる。又休暇の取得等、職場環境や条件には特に気を配って働きやすい職場の整備に努めている。		
		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受講しやすいように年間を通して研修費の補助を行っている。又、研修で学んできた事は自施設に持ち帰り発表会を行い資質向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	垂水区内のグループホームで形成される連絡会にも出来るだけ多くの職員が出席し意見交換を行い自施設においてサービスの質の向上につなげている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時にはご本人、ご家族の困りごとや要望を伺い、入所後は出来る限り寄り添う時間を多くし安心していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時にはご家族の困りごとや要望を伺い、入所後は話し合う機会を多く設けご家族の気持ちを受け止め出来るだけ早く信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に生活暦、病歴等を情報収集し初期のカンファレンスにてアセスメントを行い何が必要なのか検討して提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとつ屋根に暮らすもの同士と考え相手をおもいやり助け合いアットホームな環境づくりに心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のかかわりと協力が一番と考え、家族と共に過ごす機会も多くしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が以前住んでいた場所を訪ねたり、知人との関係を把握し来訪時の受け入れや電話などの支援をしている。	本人の生活暦から、馴染みの関係や場所を探し出し、継続的な支援に繋げる努力をしている。誕生日に、利用者の希望に応じてカラオケに出かけたりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者お一人お一人の個性を把握し、支え合い共に暮らす関係づくりを支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の相談や退去された後も経過を伺い支援出来ることがあれば協力している。退所後も気軽に訪問いただけるような関係作りが築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の発言は記録し意向の把握に努め、職員全員で話し合い本人の立場に立って暮らしを検討している。	日頃のアセスメントから得られる情報を大切にし、家族や職員との話し合いを基に、本人の生活暦や暮らし方を把握している。	今後も、利用者と1対1になり会話ができる環境(散歩時や居室でのケア実施時・入浴時等)での会話を記録に残しその想いを反映出来るように継続に期待をしたい。
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に情報収集を行い、入所後もご家族、ご本人より歴史(生活暦、暮らし方)を伺ったり、写真を見せていただいたりしている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人にゆったりと過ごせる関わりを持ち、心身状態など把握し様子をケース記録に詳細に記録し職員全員が把握するように努めている。月1回は職員間でカンファレンスを行い対応を検討している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族と職員、時には主治医を交えたカンファレンスと月1回のモニタリングを行い、ご本人(ご家族)の意向に沿った介護計画作成や見直しをしている。	介護計画作成に当たり、カンファレンスやモニタリングを定期的で開催している。また、他の専門職からの意見も聞きながら、計画の見直しをしている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子は細かく記録し月1回の会議にて評価(モニタリング)をして今後のケアの見直しを行っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設(保育所・デイサービス)とも交流を行いお互いに協力し合っている。又ご家族にも受診、来訪などご本人との関わりの時間を多く取っていただいたり、行事への参加をお願いしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、民生委員には運営推進会議に参加していただいたり、ボランティアの方々にも協力をいただいている。又商店街や図書館へも出掛けて楽しんでいる。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医との関係も重視しご家族の協力を得ながらご入居者の医療面の支援を行っている。必要に応じ他の科への受診もご家族と相談した上で支援を行っている。	地域には診療所も多く、利用者のかかりつけ医を基本とした取組みがされている。スタッフによる受診が原則であるが、他科への受診等の支援も各フロアスタッフと家族の協力で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現状は医療連携体制が取れていないが、併設デイサービスの看護師と連携してご入居者の健康管理・急変時の対応を行っている。又、日々のケアを通じ早期発見・早期対応に心がけ医療面の支援を行っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病院ソーシャルワーカーと連携し生活の状況等、治療に専念できるよう、又早期に退院できるように情報の交換を行っている。又、退院にむけてのカンファレンスも実施できるよう調整している。	緊急時には、事前のヒアリングに基づき、法人の看護師に相談し対応している。入院時にはフロアリーダーが担当し、スタッフがフォローしている。退院時のカンファレンスでは管理者及びリーダーが参加している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や運営推進会議において施設で出来ること等(方針)、十分に説明を行っている。又、ご家族とは必要に応じ話し合いを行いご家族の協力と医療機関との協働が必要不可欠で有ることや、ご家族の意向等聞かせていただいている。	契約時に方針などを説明し、家族や利用者の意向を確認している。ターミナルの事例を通じ、医療との連携や家族への寄り添いの情報などを共有している。職員の不安要素に対し、訪問看護の活用や医師の助言などが役立っている。	介護職が、ターミナルケアに不安(負担)を持たずに対応ができるよう、研修の継続に期待をします。また、グループホームならではの精神的ケアの実施にも大いに期待をします。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間で定期的にマニュアルの読み合わせを行い、又施設内研修においても急変時、緊急時の対応について実践を通じ学ぶ機会を設けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも参加いただき施設の避難方法等も説明を行い避難訓練を行った。又当該施設が災害時の避難場所としての受け入れの準備があることも説明している。	9月にマニュアルの点検を兼ねて、消防設備や緊急連絡網の確認を行っている。夜間想定による避難路の確認や点検も行ない、AEDの取り扱い研修を行い、地域の拠点としての説明もしている。	夜間は人員が少なくなるので、夜間想定をした訓練等の継続的な実施をすることで、職員や家族の安心感にも繋がることと察します。

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活暦を把握し人格を損ねないような声掛けや、相手の立場に立って、恥ずかしいとか嫌と思うようなことはしないように努めている。	日常の生活場面やトイレへの誘導、入浴時での声掛けなど、利用者の尊厳に注意して行っている。また、実習生の受入れ時にも指導の中からの再確認に繋げている。	「その人らしさ」を支援するためには、認知症ケアの理解と浸透が必要です。今後も学習会等の継続に期待をします。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご家族から嗜好を聞かせていただいたり日常の関わりの中からご本人の行動や表情、言葉から好みを把握しており、また自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者ひとりのひとりの生活のペースに合わせその時々のご本人の意見、希望を大切にして過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時はご本人希望の外出着に着替えてお化粧をしたり、ご本人が希望されるマニキュアやヘアカラーをしていただきご本人のこだわりを支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日食事の準備、配膳は一緒にしている。ご入居者の希望のフリーメニューでは食べたい物を伺い一緒に買い物に出掛け調理をしている。又外食もみなさんの希望を伺い食事を楽しんでいただいている。	食事会では、家族との交流を兼ね昼食の盛り付けや配膳等と一緒にしている。献立については、週に2回のフリーメニューを採用し、新鮮な旬の食材を購入している。夏には、流しそうめんやスイカ割り、外食の機会(回転寿司やお好み焼き)も採り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々カロリー計算されたメニューで栄養バランスを考えている。水分はチェック表で管理し水分不足のある方は補助食品で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、就寝前には義歯を洗浄液に浸けている。異変があれば歯科医を受診したり訪問歯科を利用している。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツを使用してこまめな声掛けでトイレ誘導し排泄の失敗を減らし、身体機能が低下されても出来るだけトイレでの排泄を促すよう努めている。	日常の記録から得られる情報を活用し、こまめな声掛けや誘導をしている。夜間帯はポータブルトイレやパッドの使用など、利用者の安全に配慮した取り組みが行われている。	今後も、出来る限り無理のない自立支援のためのリズム作りと、羞恥心への配慮への継続を願います。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通のよくなる食べ物として寒天や雑穀米を入れたり野菜ジュースを摂り入れ、個々に応じ腹部マッサージを行ったり便秘予防に取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	時間帯も午前、午後と決めずその日の体調や気分に合わせてご本人の希望にそった対応をしている。入浴の順序や異性を拒否される方にも配慮し、入浴剤を使ってくつろいだ気分で入浴を楽しんでいただいている。	入浴は、日曜日以外の午前、午後を使い、利用者の希望に沿った対応をしている。入浴剤の使用や、季節湯(ゆず)等も採り入れる工夫がされている。	浴槽の広さに比べ、脱衣所がやや狭いため、整理棚の設置などの工夫がされては如何でしょう。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が希望すれば昼間でも時間にとらわれず適度に仮眠を取っていただき、就寝前にはテレビを観てお茶を飲みながら雑談を楽しみ安眠できる環境づくりに心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	外部研修において薬に関する目的や副作用について学び自施設において研修を行い薬に関する理解を深めた。ご本人の状態の変化については主治医に随時相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中にご本人ひとりひとりに合った役割があり、食事づくりや掃除、花の手入れ、又行事の参加等、ご本人の意思を支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々近隣の商店街に買い物や散歩に出掛けている。ご家族の協力を得ながら遠足や外出に出掛けたり、希望する場所を訪ねたりしている。	近隣のショッピングセンターや水族館、大衆劇場などに出かけている。本人の希望に沿った場所へのお出かけ時には、家族の協力も得て希望をかなえる様にしているケースもある。	個々の利用者により「外出支援の目的」も様々と考えられます。利用者の思いに沿った支援の継続を願います。



自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理出来る方は外出時にご本人の希望される買い物もされて支払いをされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話や居室に電話を引かれていつでもご家族と連絡出来るようにしている。電話の無い方はいつでも連絡出来るように施設の電話を使っただけのように支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に季節感を出すための貼り絵や飾り物をしたりテレビや音楽を聴いてソファでゆっくりと寛げるように環境や雰囲気づくりに努めている。	各フロアーは、居心地の良い家具配置にも配慮した活気ある雰囲気になっている。共用空間は視覚だけでなく聴覚にも働きかける配慮がされている。屋上の庭園にはエレベータで利用できるようになっており外気浴や園芸を楽しんで頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター前は個人が好んで行かれる場所で、ご入居者同士が話しやすいように椅子や座布団を置いている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こだわりの物や使い慣れた家具やテレビ、ご家族の写真、花などを飾ったりして居心地よく過ごしていただけるような居室づくりを支援している。	各部屋にはトイレと洗面台、収納棚があり、部屋の内装は木質系で統一され落ち着いた雰囲気である。バルコニーがあり、広い開口部が確保されている。個人のなじみの品など持ち込まれており、小さなお仏壇を置いている利用者もいる。	今後も、出来る限り自立した生活の継続を目標に、本人の現在の移動・移乗の状態に合わせた動線の安全確保を願います。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の身体機能を考慮し危険な物は排除したり、ご家族と家具の配置など相談し自立出来るようにしている。		